

全国の10～70代の男女1,000名に聞く

「歯科診療」および「歯科医師」に関する第2回意識調査 ～理想の歯科医師 今年是天海祐希さんと向井理さん～ ～歯科医院の数が増えることには歓迎ムード～

社団法人日本私立歯科大学協会(東京都千代田区)は、10～70代の幅広い世代の男女1,000名(全国8エリア)に対して、6月4日～6月10日の「歯の衛生週間」中に、「歯科診療」及び「歯科医師」に関する意識調査を実施しました。2010年に引き続き、第2回目の調査となります。

調査期間:2011年6月6日(月)～6月8日(水) 調査対象:10～70代の男女1,000名

7割(69.6%)がかかりつけ歯科医院を持つ。採点は79.3点。

- ◆かかりつけの歯科医院がある人は、全体の約7割(69.6%)。満足度は平均79.3点。
- ◆歯科医院を選ぶポイント、トップ3は「技術」(66.7%)、「評判」(64.6%)、「立地」(55.7%)。

昨今の歯科医院増加を生活者は歓迎。

- ◆「新しい技術や設備を持った歯科医院が増えるのは歓迎」(46.8%)、「近くで評判の良い歯科医院を選べるので有難い」(42.0%)など歓迎ムード。

歯科医師なら嬉しい有名人、女性「天海祐希」さん、男性「向井理」さん

- ◆天海さんは昨年同様全体でも1位。昨年女性4位の真矢みきさんが今年の女性2位。
- ◆男性1位の向井理さんは昨年の21位から急浮上。昨年男性1位の福山雅治さんは2位。

歯科診療に関する知識は高いが、歯科医師に関する知識は薄い。

- ◆「歯科学生就職率は100%」(正答率11.1%)など、歯科医師に関する知識は薄い。
- ◆「健康な歯が多く残っている人は長寿傾向」(71.0%)、「喫煙は歯を失う危険性を高める」(60.8%)など歯科診療に関しては正答率が高め。

東日本大震災での歯科医療支援活動の認知は半数以下(49.5%)。

- ◆被災地での歯科医師・歯科衛生士の支援活動を「知っていた」人は半数以下(49.5%)。「知らなかった」が5割(50.5%)を超え、10代では7割(71.7%)にも。

自分も他人も、オーラルケア(口腔管理)で一番気になるのは口臭。

- ◆自分のオーラルケアの悩み、1位は「口臭」(42.7%)。
- ◆他人のオーラルケアが「気になる」人は6割(58.7%)で、やはり「口臭」が気になるが1位(82.8%)。

<歯科診療・歯科医師への意識と実態>

調査の結果、歯科医院への通院経験者が大多数(96.7%)を占めることが分かりました。ただし、「通院を途中でやめたことがある」人も4割近く(35.1%)に達しており、理由としては「面倒になった」や「通院の必要を感じなくなった」などがあがっています。

かかりつけの歯科医院がある人は全体の7割(69.6%)で、かかりつけの歯科医院の満足度は平均79.3点でした。歯科医院を選ぶポイントとして、「技術」(66.7%)、「評判」(64.6%)、「立地」(55.7%)、「人柄」(55.3%)などがあげられています。

最近の歯科診療や歯科医師への認識について聞いたところ、歯科医院が増えることについては、「新しい技術や設備を持った歯科医院が増えるのは歓迎」(46.8%)など全体に歓迎の意向です。「理想の歯科医師」を聞いたところ、1位は「丁寧な治療をしてくれる人」(85.1%)となり、年代が高くなるほど、「丁寧」で「痛くない治療」を求める傾向にあります。歯科医師になって「診てもらいたい有名人」としては、女性は昨年から引き続いてトップの「天海祐希」さん(92件)、男性1位は「向井理」さん(51件)となっています。向井理さんは昨年の21位からのランクアップです。

全体に歯科医師に関する知識は薄く、「歯科学士の就職率は100%である」は昨年(正答率:11.7%)に引き続き、今回も正答率は11.1%と低い結果となりました。

また、本年は東日本大震災が発生したため、多くのボランティア歯科医師や歯科衛生士が被災地や避難所で活躍しましたが、被災地における歯科医師の歯科医療支援活動について「知っていた」人も全体の2割弱(17.2%)に過ぎず、「知らなかった」(50.5%)が過半数を占めました。若い年代ほど「知っていた」「聞いたことがある」は少なく、10代では「知らなかった」が7割(71.7%)を超えています。

<オーラルケアへの意識と実態>

オーラルケアへの意識について、詳細に見ていくと、自分については「口臭」(42.7%)、「歯垢・歯石」(40.2%)、「むし歯」(39.5%)、「歯の黄ばみ」(38.4%)を悩みとしている人が多く、10代は「歯の黄ばみ」、20代は「歯並び」、30代は「むし歯」、40代は「口臭」、50代・60代は「歯垢・歯石」、「歯周病」と、年代によって抱える悩みがはっきりと変化しています。

他人のオーラルケアについては「気になる」(58.7%)人が多く、そのうち8割(82.8%)は「口臭」が気になっています。自分についても、他人についても「口臭」を気にしている人が多いようです。

なお、日頃行っているオーラルケアとしては、「歯磨き」をしている人が大多数(96.2%)。オーラルケアにかける月平均額は「1,000円未満」が過半数(53.6%)で、次いで「1,000円～3,000円未満」(21.1%)でした。「お金をかけていないという人」(20.9%)もあり、10代では4割(38.6%)に達します。生涯かけてもよいと思う平均額は、約61万(611,147円)でした。女性は男性よりやや高く、年代別では上に行くほど高くなる傾向で、60・70代は911,115円と最も高額となりました。

歯科医院通院未経験者は3.3%。むし歯治療等のためにほぼ全員が通院経験アリ。

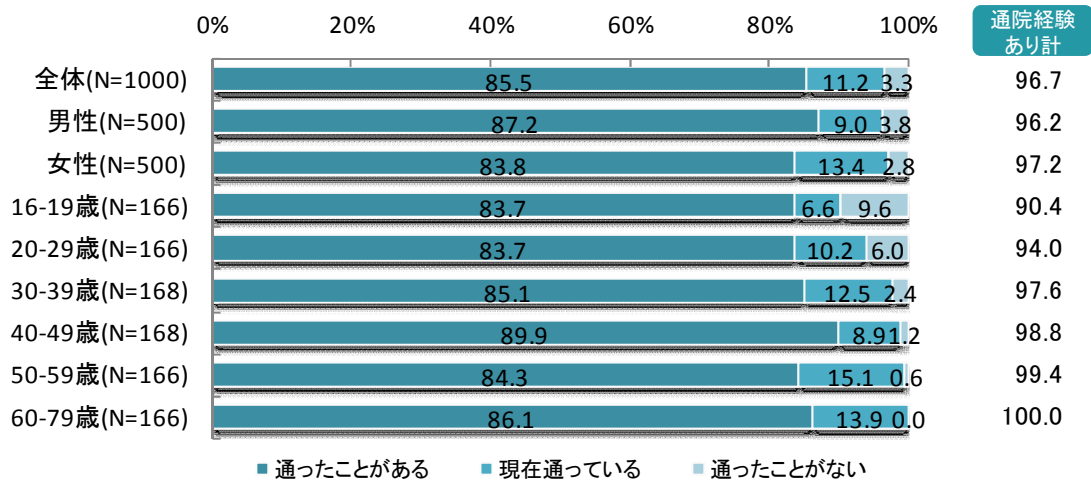
- ◆歯科医院に「通ったことがない」人は3.3%。大多数(96.7%)が通院経験者。
- ◆「むし歯の治療」(85.8%)、「歯のクリーニング」(39.0%)、「抜歯」(36.6%)などのために通う。

まず、歯科医院への通院経験を聞いたところ、「通ったことがある(が、現在は通っていない)」(85.5%)、「現在通っている」(11.2%)を合わせ、96.7%という大多数が通院経験者となっており、「通ったことがない」人は3.3%です。高年齢になる程「通ったことがない」人は減り、60代・70代では0%です。[グラフ1]

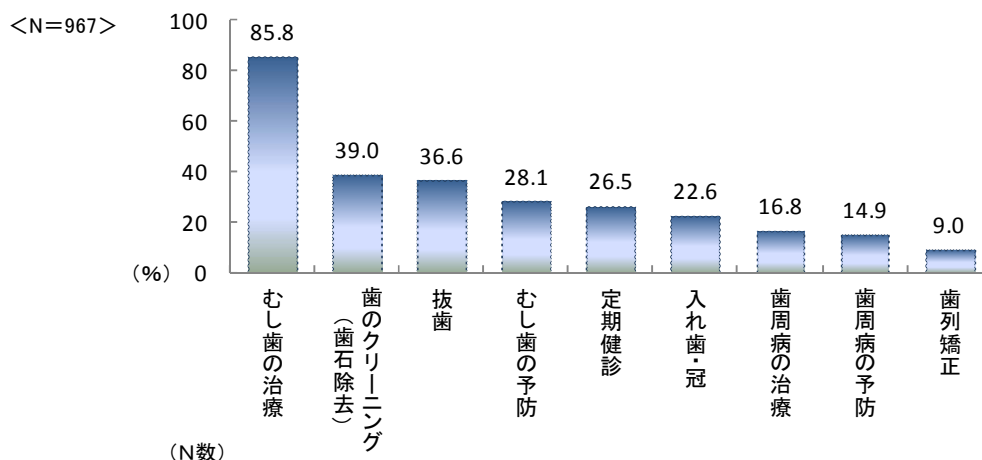
通院経験者に通院理由を聞くと、「むし歯の治療」が85.8%と圧倒的に多く、次いで「歯のクリーニング」(39.0%)、「抜歯」(36.6%)の順となっています。[グラフ2]

「むし歯の治療」が昨年(84.9%)同様高いのは、多くの場合むし歯により通院し、結果として歯周病等の病気が判明して、総合的な治療に移行しているケースが多く含まれていることを示唆していると思われます。

グラフ1: 歯科医院の通院経験



グラフ2: 歯科医院に通う目的(複数回答)



性別	男性	481	85.2	32.8	33.3	26.6	22.0	24.3	17.7	12.3	6.4
	女性	486	86.4	45.1	39.9	29.6	30.9	21.0	15.8	17.5	11.5
年代	16-19歳	150	79.3	17.3	24.7	28.7	19.3	4.0	4.7	7.3	20.7
	20-29歳	156	89.1	37.8	29.5	29.5	21.2	5.1	12.2	11.5	16.7
	30-39歳	164	89.6	33.5	32.3	32.9	26.8	11.0	16.5	13.4	9.8
	40-49歳	166	92.2	55.4	39.2	24.1	28.9	21.7	15.7	16.3	3.6
	50-59歳	165	84.8	43.6	45.5	27.3	26.7	37.6	21.2	18.2	3.0
	60-79歳	166	79.5	44.0	47.0	26.5	34.9	53.6	28.9	21.7	1.8

通院経験者の3人に1人(35.1%)が「面倒」などの理由で挫折経験アリ。

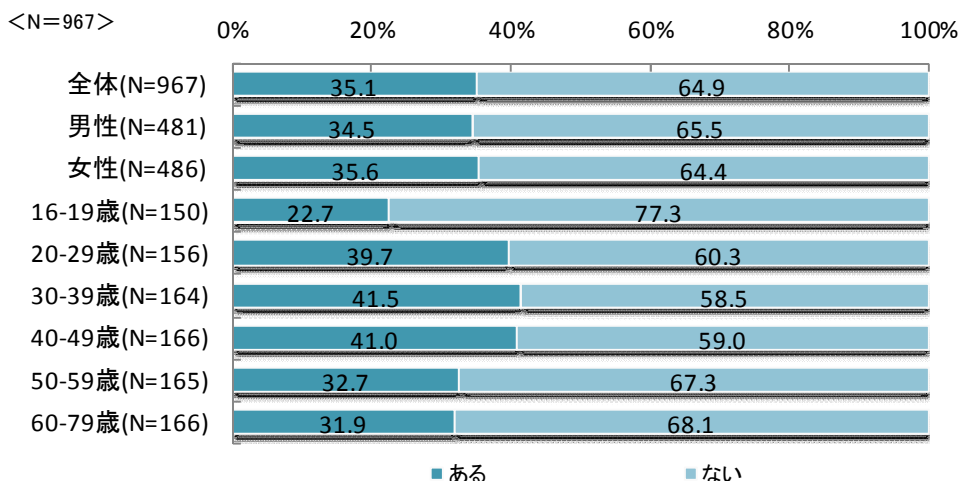
◆通院を「途中でやめたことがある」人は、3人に1人強の35.1%。

◆やめた理由は「面倒」(46.9%)、「時間がとれない」(35.1%)、「必要性を感じなくなった」(25.1%)など。

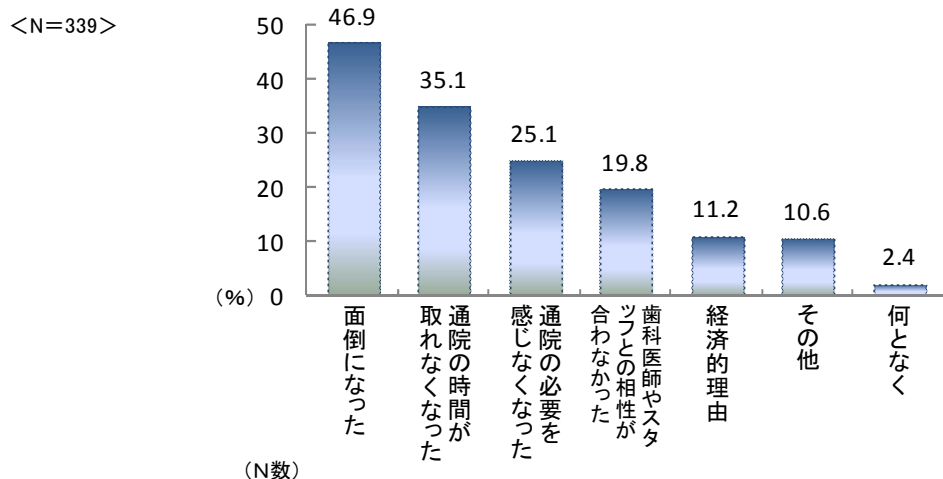
歯科医院への通院を途中でやめてしまったことが「ある」人は全体の35.1%でした。10代では通院をやめたことのある率が他の年代と比べて低い(22.7%)ですが、これは親の管理の元通っているからかもしれません。[グラフ3]

やめてしまった理由を聞くと、「面倒になった」が46.9%と多く、次いで「通院の時間が取れなくなった」(35.1%)、「通院の必要性を感じなくなった」(25.1%)が続きます。年代が若いほど「面倒になった」(20代、56.5%)、勤労世代は「通院の時間が取れなくなった」(40代、41.2%)が多く、年代が高いと「通院の必要性を感じなくなった」(60・70代、35.8%)が多い傾向です。[グラフ4]

グラフ3:通院を途中でやめた経験



グラフ4:通院を途中でやめた理由(複数回答)



(N数)									
性別	男性	166	50.0	36.1	21.7	16.9	9.0	6.6	2.4
	女性	173	43.9	34.1	28.3	22.5	13.3	14.5	2.3
年代	16-19歳	34	52.9	23.5	20.6	23.5	11.8	5.9	2.9
	20-29歳	62	56.5	40.3	25.8	16.1	9.7	6.5	3.2
	30-39歳	68	47.1	35.3	19.1	20.6	13.2	8.8	1.5
	40-49歳	68	50.0	41.2	26.5	16.2	11.8	14.7	0.0
	50-59歳	54	42.6	40.7	22.2	20.4	16.7	13.0	1.9
	60-79歳	53	32.1	22.6	35.8	24.5	3.8	13.2	5.7

かかりつけ歯科医院の満足度、79.3点。選ぶポイントは「技術」、「評判」、「立地」等。

- ◆かかりつけの歯科医院がある人は7割(69.6%)。
- ◆かかりつけの歯科医院の満足度は、平均79.3点。

かかりつけの歯科医院があるかどうか聞いたところ、「ある」と答えた人は約7割(69.6%)でした。男性は65.9%、女性は73.3%が「ある」と答えています。年代別では年齢が上がるほど「ある」人が多くなっています。[グラフ5]

かかりつけの歯科医院が「ある」人にその満足度を採点してもらったところ、平均は79.3点でした。[表1]

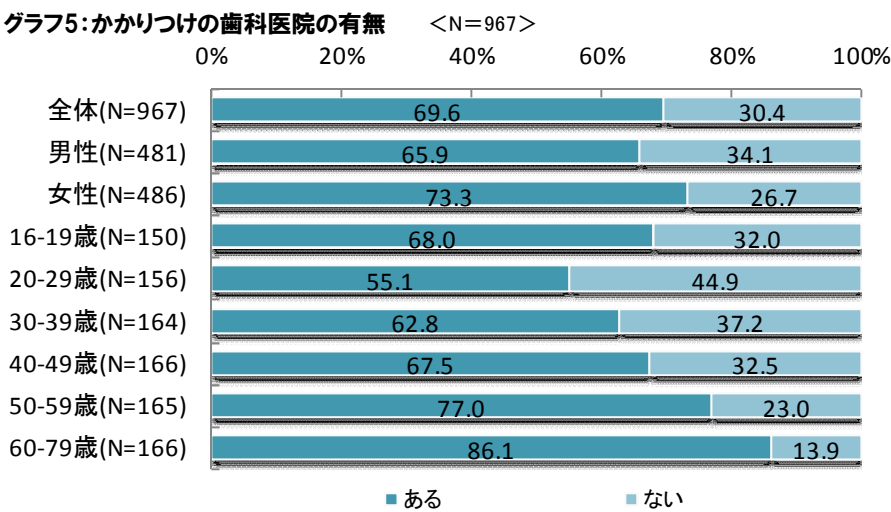


表1:かかりつけ歯科医院の満足度

全体(N=673)	79.3
男性(N=317)	79.7
女性(N=356)	78.9
16-19歳(N=102)	80.6
20-29歳(N=86)	77.8
30-39歳(N=103)	78.5
40-49歳(N=112)	80.9
50-59歳(N=127)	75.4
60-79歳(N=143)	82.0

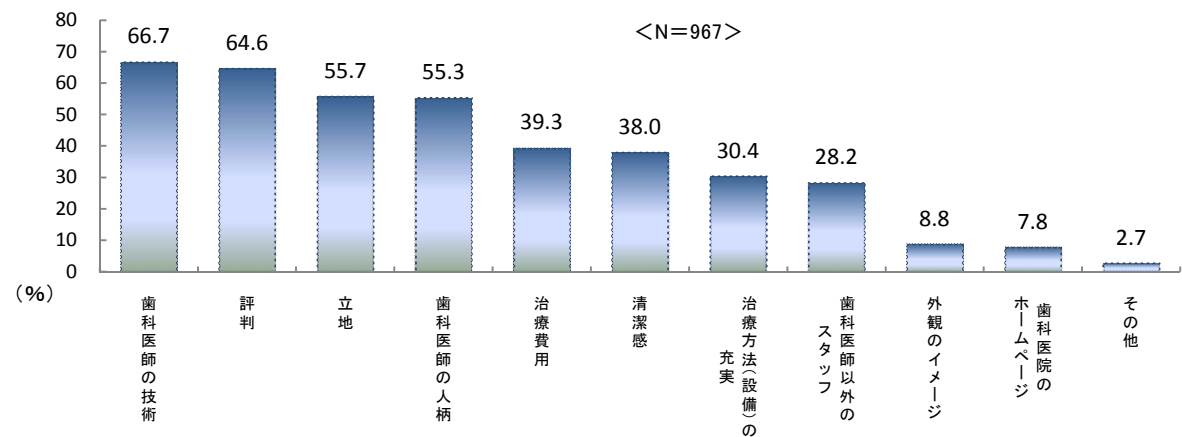
(点)

- ◆歯科医院を選ぶポイントは、「技術」(66.7%)、「評判」(64.6%)、「立地」(55.7%)、「歯科医師の人柄」(55.3%)など。

歯科医院を選ぶポイントを聞くと、トップが「歯科医師の技術」(66.7%)、2位「評判」(64.6%)、3位「立地」(55.7%)の順でした。以下、「歯科医師の人柄」(55.3%)、「治療費用」(39.3%)、「清潔感」(38.0%)、「治療方法(設備)の充実」(30.4%)と続きます。何よりも技術を重視していることが窺えます。

また、「歯科医師以外のスタッフ(歯科衛生士や歯科技工士など)」も28.2%の人があげています。[グラフ6]

グラフ6:歯科医院を選ぶポイント(複数回答)



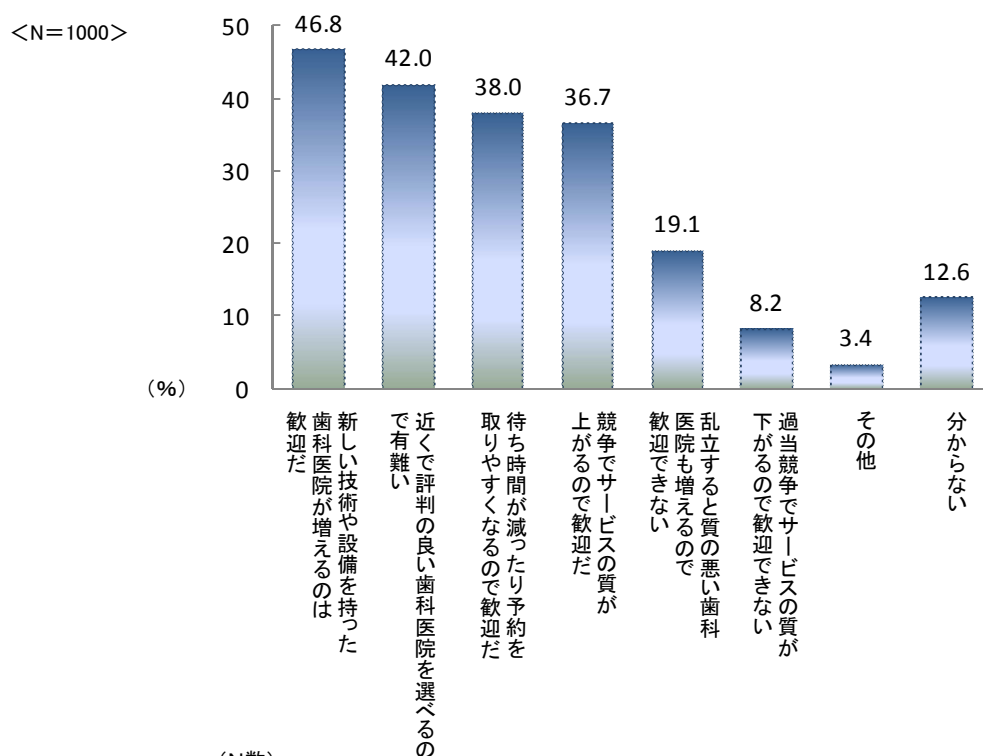
昨今の歯科医院増加を生活者は歓迎。切磋琢磨を期待。

◆ 歯科医院が増えることについては、「新しい技術や設備を持った歯科医院が増えるのは歓迎」(46.8%)など全体に歓迎の意向。

昨今歯科医院が増えていることについては、「新しい技術や設備を持った歯科医院が増えるのは歓迎だ」と答えた人が、全体の46.8%。次いで「近くで評判の良い歯科医院を選べるので有難い」(42.0%)、「待ち時間が減ったり予約を取りやすくなるので歓迎だ」(38.0%)など、「歓迎」という意見が多いようです。

一方、「乱立すると質の悪い歯科医院も増えるので歓迎できない」という意見も19.1%見られました。女性は男性より「歓迎だ」との答えが多く、男性は女性に比べ「歓迎できない」割合が高くなっています。[グラフ7]

グラフ7: 歯科医院の数が増えていくことについてどう思うか(複数回答)



		(N数)								
性別	男 性	500	43.0	37.2	39.8	40.6	21.4	11.0	3.0	12.6
	女 性	500	50.6	46.8	36.2	32.8	16.8	5.4	3.8	12.6
年代	16-19歳	166	28.9	29.5	32.5	22.9	19.3	9.0	3.6	24.1
	20-29歳	166	41.6	42.2	39.2	33.7	19.3	6.0	0.6	12.0
	30-39歳	168	46.4	43.5	42.9	39.3	22.6	8.9	6.0	13.7
	40-49歳	168	51.8	45.2	31.5	38.7	22.0	9.5	1.8	10.1
	50-59歳	166	53.0	39.8	36.1	42.2	17.5	8.4	4.8	9.0
	60-79歳	166	59.0	51.8	45.8	43.4	13.9	7.2	3.6	6.6

理想の歯科医師は「天海祐希」さん、「向井理」さん。治療が的確で清潔感がありそう。

- ◆理想の歯科医師は「丁寧な治療をしてくれる人」(85.1%)、「信頼できる人」(67.0%)。
- ◆診てもらいたい有名人、女性「天海祐希」さん(92件)、男性「向井理」さん(51件)。

歯科医院の増加を歓迎し、切磋琢磨を求める一般生活者たち。理想の歯科医師とはどのような人が聞いたところ、トップが「丁寧な治療をしてくれる人」(85.1%)、2位「信頼できる人」(67.0%)、3位「痛くない治療をしてくれる人」(44.7%)の順でした。[グラフ10]

では、この人だったら診てもらいたいと思う有名人をあげてもらったところ、全体の1位は断突で「天海祐希」さん(92件)、特に女性からの支持が高くなっています。その他女性の上位は2位「真矢みき」さん(42件)、3位「松嶋菜々子」さん(32件)でした。男性で人気が高かったのは、1位「向井理」さん(51件)、2位「福山雅治」さん(42件)、3位「大沢たかお」さん(20件)。

「天海祐希」さんは昨年から引き続きの1番人気、「向井理」さんは昨年の21位から順位が大幅にアップしています。[表2]

グラフ10:理想の歯科医師とはどのような人か

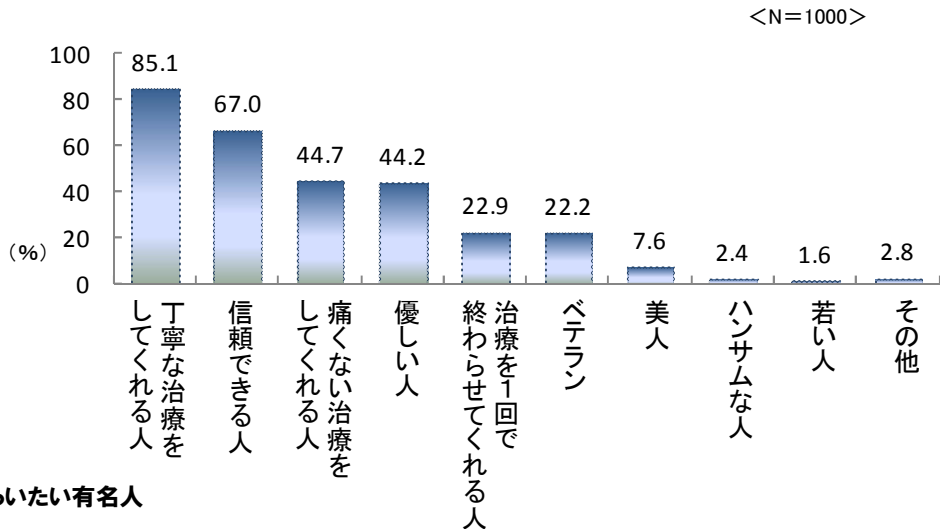


表2:診てもらいたい有名人

2010年		
順位	女性芸能人	件数
1	天海祐希	68
2	松嶋菜々子	52
3	黒木瞳	37
4	真矢みき	31
5	西川史子	25

2011年		
順位	女性芸能人	件数
1	天海祐希	92
2	真矢みき	42
3	松嶋菜々子	32
4	藤原紀香	18
5	黒木瞳	17

「テキパキしていて治療が的確そう。」
「さばさばしてて、治療がはやい」
「技術は完ぺき、説明もわかりやすそう」
「信頼できそう。」

順位	男性芸能人	件数
1	福山雅治	57
2	江口洋介	31
3	木村拓哉	24
4	阿部寛	24
5	高橋英樹	16
21	向井理	7

順位	男性芸能人	件数
1	向井理	51
2	福山雅治	42
3	大沢たかお	20
4	西田敏行	16
5	竹野内豊	12

「清潔感がある」
「カッコいい」
「優しい」
「頭がよく、さわやかで良いイメージだから。」

一般生活者の歯科医師に関する知識は薄い。

- ◆「歯科学生就職率は100%」(正答率11.1%)など、歯科医師の知識は薄い。
- ◆「健康な歯が多く残っている人は長寿傾向」(71.0%)、「喫煙は歯を失う危険性を高める」(60.8%)など歯科診療に関しては正答率が高め。

歯科診療、歯科医師に関する知識を様々な角度から聞いてみました。

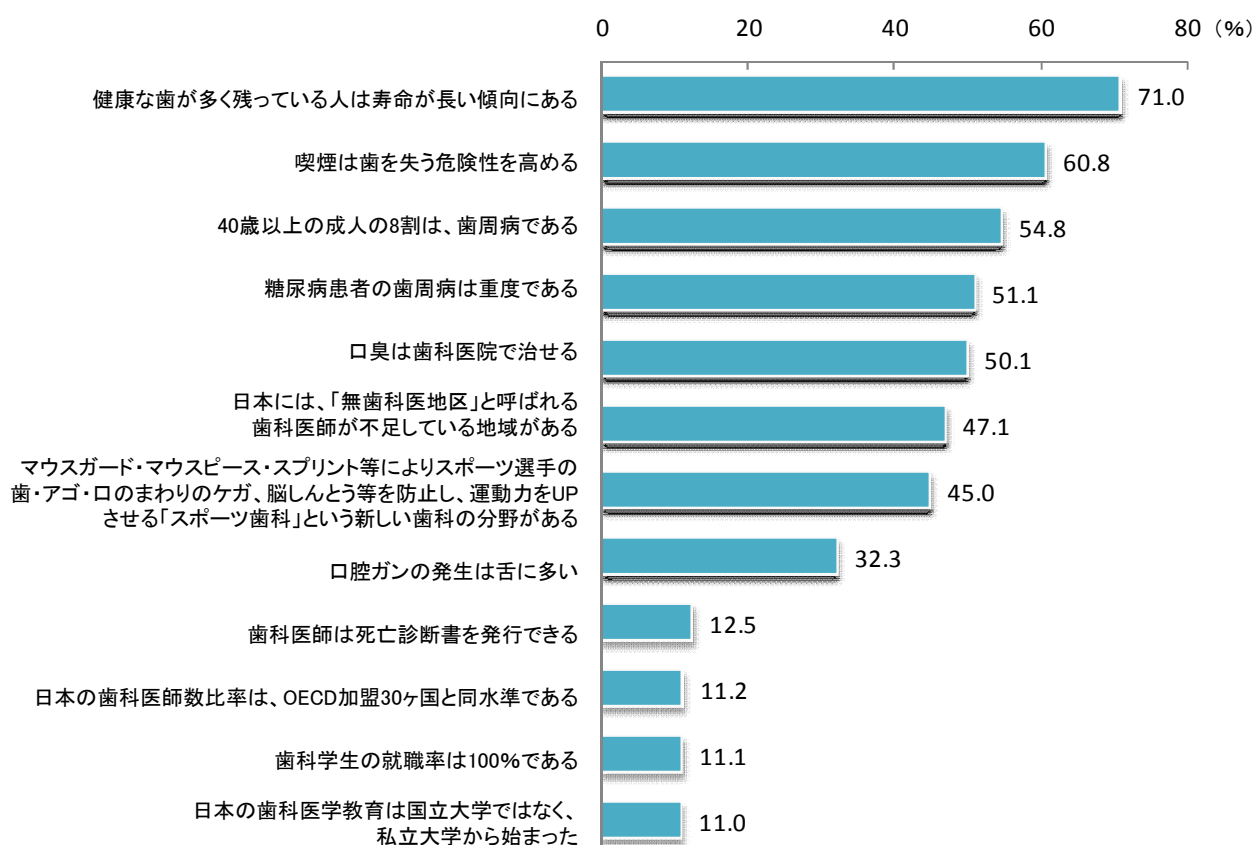
「日本の歯科医学教育は国立大学ではなく、私立大学から始まった」(正答率:11.0%)、「歯科学生就職率は100%である」(正答率:11.1%)など正答率の低い項目と、「健康な歯が多く残っている人は長寿傾向」(71.0%)、「喫煙は歯を失う危険性を高める」(60.8%)など、比較的正答率の高い項目に二分されました。

全体的に見て、一般生活者の歯科診療に関する知識は比較的高く、歯科医師に関する知識は薄いと言えます。

なお、「歯科学生就職率は100%である」は昨年の正答率も11.7%で、昨年から一貫して認知が低いことが分かります。[グラフ8]

グラフ8: 歯科医療に関するファクト 正答率(Q36)

<N=1000>



歯科医師等の被災地における支援活動の認知率は、半数を割る(49.5%)。

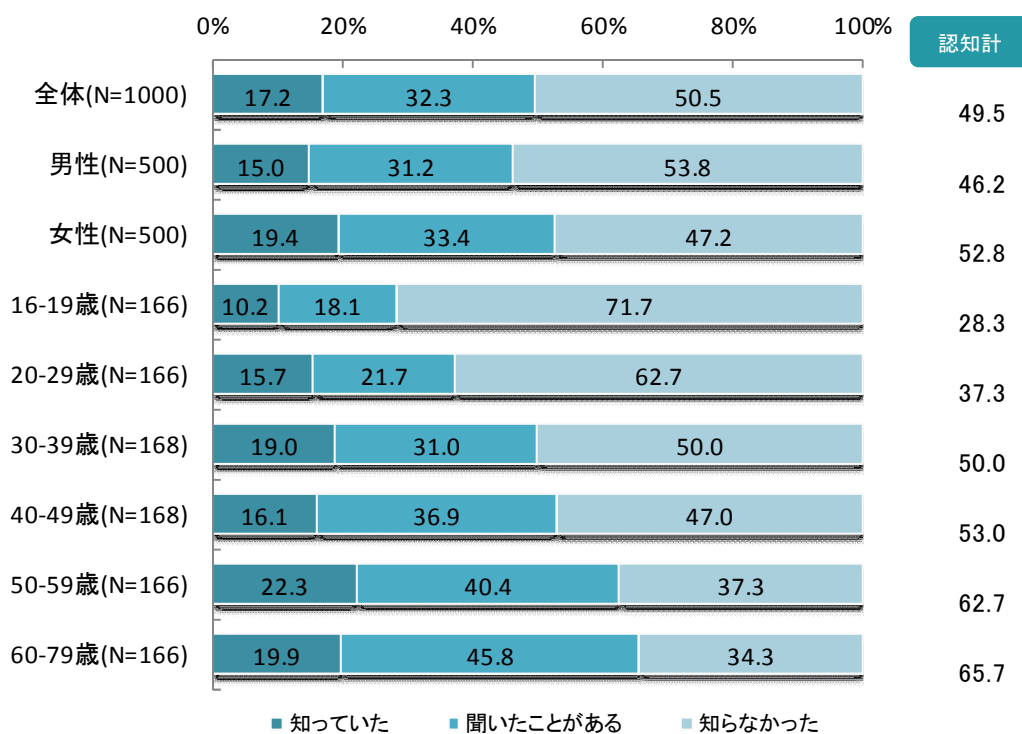
◆被災地での歯科医師・歯科衛生士の支援活動、「知らなかった」が5割(50.5%)を超え、10代では7割(71.7%)に達している。

被災地や避難所における、口腔ケア等の歯科医療支援活動は、被災者の健康管理や誤嚥性肺炎予防の面からも欠くことのできない重要な医療活動となっており、数多くのボランティアの歯科医師や歯科衛生士が、今日も重要な使命を担って診療に当たっています。

しかし、被災地で医療活動をしていることを知っていたかという質問では、「知っていた」は全体の17.2%に過ぎず、「聞いたことがある」も32.3%で、「知らなかった」(50.5%)が過半数を占めました。年代別では、若い年代ほど「知っていた」「聞いたことがある」は少なく、10代の「知らなかった」という答えは7割(71.7%)を超えています。[グラフ9]

阪神淡路大震災において、震災関連疾病による死亡者の24%が肺炎によるもので、最も高率であったことを考えると、現地で活躍する歯科医師や歯科衛生士の活動について、さらなる広報が必要と言えそうです。

グラフ9:東日本大震災の被災地で歯科医療支援活動を行っていることを知っていたか



オーラルケアの気になる悩みは、自分も、他人も1番は「口臭」。

◆「オーラルケアの悩み」、1位は「口臭」(42.7%)。

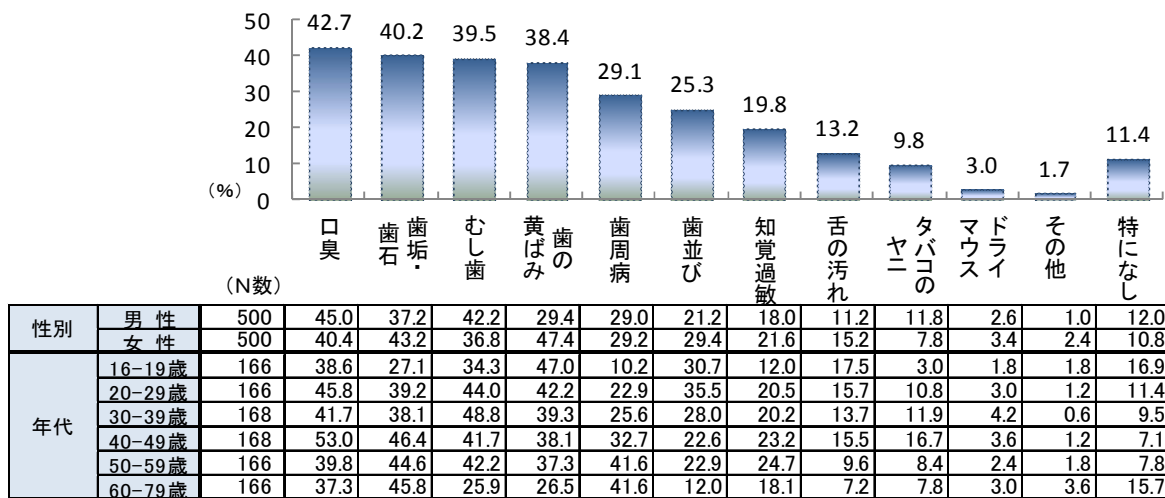
◆性別や年代によって、オーラルケアの悩みは大きく異なる。

ここからはオーラルケア(口腔管理)について見ていきます。

オーラルケアに関する悩みを聞いたところ、「口臭」(42.7%)が一番高く、次いで「歯垢・歯石」(40.2%)、「むし歯」(39.5%)、「歯の黄ばみ」(38.4%)と続きました。女性は「歯の黄ばみ」を悩みとする人が一番多く、男性は「口臭」。10代は「歯の黄ばみ」、20代は「歯並び」、30代は「むし歯」、40代は「口臭」、50代・60・70代は「歯垢・歯石」、「歯周病」と年代によって抱える悩みの違いが窺えます。[グラフ11]

グラフ11:オーラルケアに関する悩み

<N=1000>



◆「他人のオーラルケアが気になる」人が、過半数を大きく超える(58.7%)。

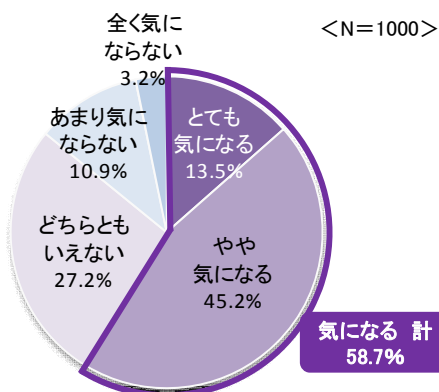
◆他人の「口臭」(82.8%)が気になる人が圧倒的多数。

他人のオーラルケアが気になるかどうか、「とても気になる」が13.5%、「やや気になる」が45.2%となり、合わせて6割近い人(58.7%)が「気になる」と答えています。一方、「あまり気にならない」は10.9%、「全く気にならない」が3.2%となっています。[グラフ12]

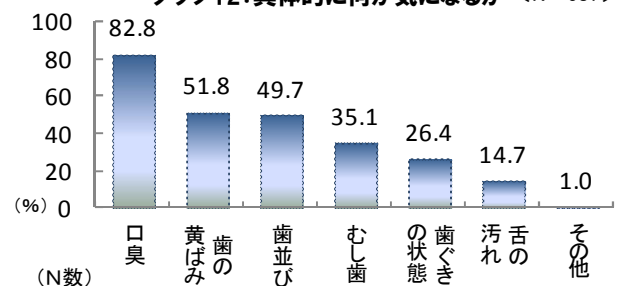
「気になる」と答えた人に、具体的にどのようなことが気になるかを聞いたところ、「口臭」が82.8%と最も高く、次いで「歯の黄ばみ」(51.8%)、「歯並び」(49.7%)でした。女性は「歯の黄ばみ」、「歯並び」(いずれも55.6%)の割合が高く、男性よりも見た目を気にする傾向が窺えます。60・70代以上に比べ、若い年代が「むし歯」(20代、48.1%)、「舌の汚れ」(10代、26.1%)などを気にしています。[グラフ13]

グラフ12:他人のオーラルケアが気になるか

<N=1000>



グラフ12:具体的に何が気になるか <N=587>



性別	男性	女性	口臭	歯の黄ばみ	歯並び	むし歯	歯の状態	歯ぐきの汚れ	舌の汚れ	その他
男性	276	82.6	47.5	43.1	34.1	22.5	13.4	0.7		
女性	311	83.0	55.6	55.6	36.0	29.9	15.8	1.3		
年代	16-19歳	92	75.0	54.3	53.3	42.4	23.9	26.1	1.1	
	20-29歳	104	78.8	58.7	53.8	48.1	26.0	16.3	0.0	
	30-39歳	89	83.1	52.8	53.9	37.1	23.6	18.0	1.1	
	40-49歳	107	89.7	50.5	49.5	28.0	29.9	14.0	0.0	
	50-59歳	90	84.4	53.3	50.0	37.8	31.1	7.8	3.3	
	60-79歳	105	84.8	41.9	39.0	19.0	23.8	6.7	1.0	

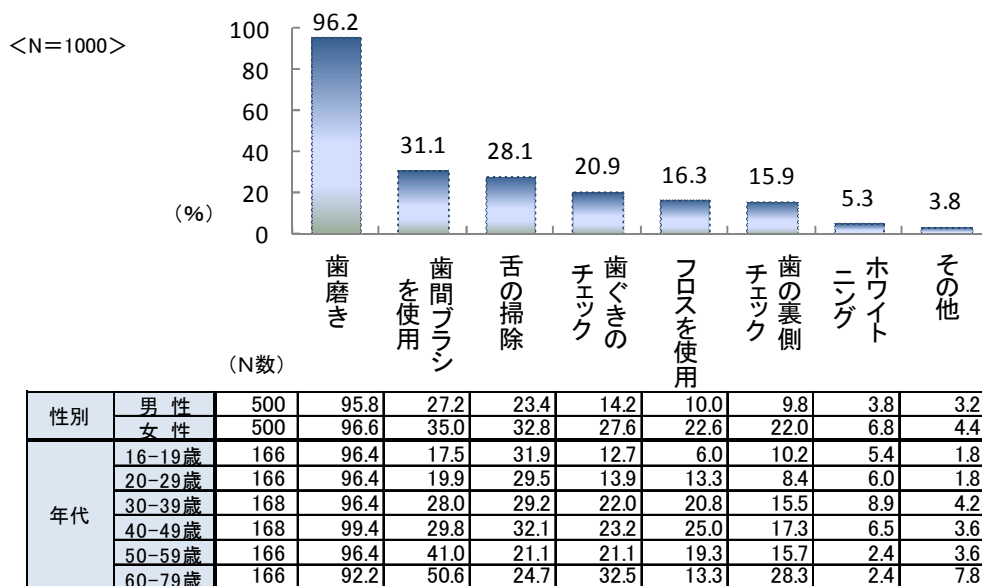
オーラルケアの中心は「歯磨き」。生涯費用で平均61万円お金をかける！

◆日頃行っているオーラルケアは「歯磨き」が96.2%とほぼ全員。

◆女性と60・70代はさまざまな項目で高い実施率を示し、オーラルケアの優等生。

日頃、家で行っているオーラルケアを聞いたところ「歯磨き」が全体の96.2%と最も多く、以下、「歯間ブラシを使用」(31.1%)、「舌の掃除」(28.1%)、「歯ぐきのチェック」(20.9%)でした。全ての項目で女性の実施率は男性に比べて高く、しっかりと行っています。60・70代が他の年代に比べて「歯間ブラシを使用」、「歯ぐきのチェック」、「歯の裏側チェック」のいずれもが高く、年齢と共にオーラルケアに対する意識が高くなる様子が窺えます。[グラフ10]

グラフ13:日頃、どのようなオーラルケアをしているか



◆オーラルケアにかかるお金の平均額は、「1,000円未満」(53.6%)が過半数。

◆生涯でかけてもよい金額、平均約61万円。60・70代では約91万円。

1ヶ月にオーラルケアにかけている金額は、「1,000円未満」が53.6%と一番多く、次いで「1,000円～3,000円未満」が21.1%。お金をかけていないという人も20.9%います。「お金をかけていない」割合は男性が少し高く、10代では38.6%となっています。[グラフ14]

口腔の健康を一生保つためにかけてもよい金額は平均611,147円。女性は634,180円と男性よりやや高く、年代別では高齢になるほど高くなる傾向で、60・70代は911,115円と最も高くなっています。高齢者の多くが、お金がかかっても口腔の健康が日常生活にいかに重要かを認識しているものと推察されます。[表3]

グラフ14:1ヶ月にオーラルケアにかけている金額

<N=1000>

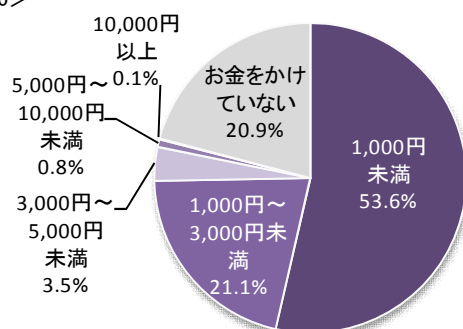


表3:生涯かけても良いと思う金額

全体(N=673)		611,147
性別	男性(N=317)	588,114
	女性(N=356)	634,180
年代	16-19歳(N=102)	373,576
	20-29歳(N=86)	503,085
	30-39歳(N=103)	556,062
	40-49歳(N=112)	544,052
	50-59歳(N=127)	780,464
	60-79歳(N=143)	911,115

(円)

<社団法人日本私立歯科大学協会について>

社団法人日本私立歯科大学協会(中原泉会長、所在地:東京都千代田区)は、全国17の私立歯科大学・歯学部によって、昭和51年に設立されました。

同協会は歯科医学、歯科医療等の現状および将来展望などの情報を社会へ発信すること、私立歯科大学・歯学部における教育、研究、臨床、管理運営、教職員・学生の福祉厚生等に関する調査研究、加盟大学教職員の研修・交流および歯学教育における国際交流などの多様な活動を推進しています。

ホームページ:<http://www.shikadaikyo.or.jp/outline/index.html>